

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

① 第三者評価機関名

株式会社シーサポート

② 施設名等

名称	済生会川口乳児院
施設長氏名	加藤富美雄
定員	30人
所在地(都道府県)	埼玉県
URL	http://www.saikawanyu.jp/

③ 実施調査日

開始日	2014/5/1
評価結果確定日	2014/12/26

④ 総評

【特に評価が高い点】

- 4つの目標：①健康と安全の確保、②基本的な生活習慣の確保、③精神・身体の発達の促進、④社会性の習得が謳われており、その実践に努めている。食事への配慮、愛着形成、発達段階に応じた支援等子どもたちが心身ともに健やかに成長するための支援がなされている。
- 併設病院の定期診断・指示ならびに電子カルテでの情報共有など連携した取り組みがなされており、多くの基礎疾患をもった子どもたちに対して「看護師を中心に・医師の指示をもって」健康の維持と増進に取り組んでいる。また、全国の法人内乳児院や併設の看護学校等豊富なネットワークを利用した繋がりと絆により子どもたちの福祉に資するよう取り組んでいる。
- 経験豊富な職員を中心に職員間の連携による適切な支援が実践されている。特に家庭・里親支援については専門的知識と経験を擁しての丁寧な支援により難解・困難なケースに対応がなされている。また工夫した・多岐の項目に渡る事業所内研修により職員の資質向上にも努めている。
- 経験の浅い職員にもわかりやすい各種マニュアルや書式の整備、内部通報制度の確立、職員個人面談の実施など直接処遇を下支えする体制の整備もなされている。

【改善を要する点】

- 施設の使命や関係機関との役割分担に考慮しながら自らの支援に対する改善点や目標の検討がなされています。
- 環境：子どもたちが安全にかつ自由に玩具を出し入れすることができるためのコーナーの設置
 - アフターケア：里親へのアンケートの実施、今年度始められた茶話会の継続
 - 書式：アセスメント様式の策定、プライバシーマニュアルの整備
 - 地域：防災等支援や交流ができる事項の検討
- 当たり前のように高い改善意欲が持たれており、併設の事業所や法人内の各種機関の協力を得ながら進捗されていかれることが期待されます。

⑤ 第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受審しました。多忙な毎日の中での当院の職員の頑張りにより作られたマニュアルなどは、どのような評価を受けるのか不安でしたが評価は自己評価よりも良い点もあり、もちろん改善しなくてはならない点もありました。受審により組織全体の業務の見直しをする機会にもなり、また良い評価を受けた項目については継続していきさらに良くなるよう取り組み、改善の必要な項目については真摯に受け止め次回受審時には良くなりましたと言われるようにします。
「次世代を担う子どもたち」に安心・安全な養育を乳児院職員一丸となって取り組んでいきます。

⑥ 第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育てている。	a
②	子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	a
③	子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>● 4つの目標：①健康と安全の確保、②基本的な生活習慣の確保、③精神・身体の発達の促進、④社会性の習得が謳われており、その実践に努めている。クラス割による担当療育制がとられており、子どもたちとの愛着が形成されるよう・子どもたちとの触れ合いを大切にしよう日々の養育・支援に努めている。</p> <p>● 日々の養育支援において、時間的・精神的に余裕がない中で、子どもたちに対して適切な言葉づかいとなるよう指導に努めている。入職時には、職員の心構えが記された書面が配布され、養育支援の考え方の指導がなされている。繰り返しの指導をする中で自ら改善できるよう職員の成長も見守られている。</p>		
(2) 食生活		第三者 評価結果
①	乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a
②	離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
③	食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	a
④	栄養管理に十分な注意を払っている。	a
(3) 衣生活		第三者 評価結果
①	気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
(4) 睡眠環境等		第三者 評価結果
①	乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	a
②	快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	a
③	快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a

(5) 発達段階に応じた支援		第三者 評価結果
①	乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
②	発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●地下に調理室があり日常的に食事作りに触れる機会が少ないため、おやつ作りやホットプレートを使った調理をするなど様々な工夫がなされている。また給食会議を中心に、栄養だけでなく子どもたちの嗜好も考慮した献立が作成されるよう積極的な意見交換がなされている。アレルギーをもつ子どもへの配慮もなされており、ホワイトボードを使い、わかりやすいよう・間違いのないよう配慮しながら行われている。また、一人ひとりの発達段階に応じ、工夫した取り組みをもって排せつ支援がなされている。トイレトレーニングマニュアルの整備、トイレの中にキャラクターを貼っての雰囲気づくり、一覧表でのチェック、会話の中の意識づけなど様々な工夫により、子どもたちのリズムを掴みながら行われている。</p> <p>●現在、安全のため玩具は子どもたちが自由に出し入れできる状態にはしていない。今後は子どもたちが自由に出し入れできる玩具を選別し、個別のコーナーや部屋を設けるなどの取り組みを思案しており、実現が期待される。</p>		
(6) 健康と安全		第三者 評価結果
①	一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a
②	病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a
③	感染症などへの予防策を講じている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●併設病院の定期健診・指示ならびに電子カルテでの情報共有など連携した取り組みがなされており、多くの基礎疾患をもった子どもたちに対して「看護師を中心に・医師の指示をもって」健康の維持と増進に取り組んでいる。入院時の面会、各診療科への通院などにも尽力がなされている。</p> <p>●健康管理マニュアル・個別のリスク別に整理された感染症対策マニュアルなど各種マニュアルが完備されている。日々の健康状態の記録・疾病記録なども詳細に記載がなされており、安全管理体制の整備がなされている。また呼吸停止・心肺停止などの指南書が新設され、勉強会において周知が図られている。</p>		
(7) 心理的ケア		第三者 評価結果
①	乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●心理士による所見がなされており、細かな記録とともに方針・アドバイスが記載されている。必要に応じてスーパーバイズがなされており、職員からの相談に応じながら心理的支援に取り組んでいる。また職員自身の心理的相談にも応じるなど職場環境の下支えとしても機能が果たされている。</p>		

(8) 継続性とアフターケア		第三者 評価結果
①	措置変更又は受入れに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	a
②	家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	a
③	子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●里親に対しては、顔合わせ時等の細かな配慮と一人ひとりに沿った段階（院内での見学⇒散歩⇒外出⇒外泊等）を踏んでの支援がなされている。不慣れな里親に対しても丁寧に・困っていることに対して支援ができるよう取り組んでいる。また里親へのアフターケアとしてアンケートの実施を思案しており、実現が期待される。</p> <p>●身長や体重などの記録やコメント・手形等を添えたアルバムが作成されており、退所時に手渡されている。施設移動の際は先方の施設の写真を撮って見せるなど、移動後の対応も一人ひとりの状況に応じながら行っており、関係機関と協働しながらなされている。また茶話会と題し、家庭復帰がなされた子どもたちの交流の機会が今年度より設けられており、今後も継続して行われていくことが期待される。</p>		

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり		第三者 評価結果
①	児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている	a
②	子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援		第三者 評価結果
①	親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●経験豊富な職員を家族支援専門相談員として専属に配置している。家庭支援計画は目標と評価をもって策定がなされており、その視線は支援全体にも行き渡っている。臨機応変な対応と他の職員に対するスーパーバイズは、施設の支援の幹となっている。</p> <p>●児童相談所と連携しながら、段階をおって外出・一時帰宅等、家庭復帰に向けての取り組みが慎重になされている。一時帰宅に対しては体調の注意事項の伝達、チェックシートの活用、綿密な記録など適切な実施に対しての体制が整備されている。また行政機関等とうまく連携できない保護者に対しても配慮しながら間に入り、親子にとってよりよい環境となるよう努めている。</p>		

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定		第三者 評価結果
①	子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
②	アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a
③	自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録		第三者 評価結果
①	子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
②	子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③	子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●乳児院におけるアセスメント機能の充実は期待されるニーズとして捉えられており、来年度、アセスメント様式の策定を思案している。関係機関による検討を経て、当施設にあったかたちで様式が制定されることが望まれ、より子どもたち一人ひとりのニーズや必要な情報を捉え、課題を的確に把握・分析していくことが期待される。</p> <p>●子どもたちの日々の記録は育成記録として毎日記載されており、成長発達がわかるエピソードを中心に「丁寧に・詳細に」なされている。子どもたちの情報は設定された各種会議を通じて職員間で共有がなされている。また文書管理規程が整備されており、その適切な管理と守秘に注意が払われている。</p>		

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
(2) 保護者の意向への配慮		第三者 評価結果
①	保護者の意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

- 子どもたちの尊重については、「心構え」に記載するなど基本的な事項として捉え、日々の養育にあたっては、報道等での虐待のニュースについては職員会議等で紹介するなど、あってはならないこととして共通認識の醸成に努めている。子どもたちへの福祉に反することは小さなことでも見逃さない士気がある。
- 新入職員研修をはじめ、電話の対応・写真の掲載などプライバシーの保護については十分な配慮をもって指導がなされている。プライバシー保護についてのマニュアル・情報開示規程の整備を行うことを思案しており、実現が期待される。

(3) 入所時の説明等		第三者 評価結果
①	保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて保護者等にわかりやすく説明している。	a

(4) 保護者が意見や苦情を述べやすい環境		第三者 評価結果
①	保護者が相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、保護者に伝えるための取組を行っている。	a
②	苦情解決の仕組みを確立し、保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	a
③	保護者等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	a

(5) 被措置児童等虐待対応		第三者 評価結果
①	いかなる場合においても体罰や子ども的人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

- 保護者の苦情や要望に対しては、苦情解決第三者委員の設置など体制の整備に努めている。面談等でも何でも相談できるようその雰囲気づくりにも配慮している。また内部通報制度が設けられており、不適切なかかわり・暴力などあってはならない行為に対して内部から告発ができるよう規定と様式が整備されている。
- 入所時には不安を持つ保護者に対して安心感を与えるよう丁寧な説明に努めている。入所案内には、施設での生活・注意事項・面会等について分かり易く記載がなされている。日本語が理解できない保護者に対しても通訳をつけて説明するなどの取り組みもなされている。

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●避難訓練が月に1回、地震・火災等を想定し行われており、実施後は評価と反省がなされている。また併設の看護学校と合同での訓練もなされている。備蓄や備品は防災倉庫に整備されており、チェックリストのもと管理がなされている。アレルギー疾患を持つ子どもに対する備蓄も装備されており、万一の事態に備えられている。</p> <p>●医療安全管理規程・不審者対策マニュアル・災害マニュアル等が整備されており、子どもたちの安全を守るための体制が構築されている。ダブルチェックによる服薬、医療安全委員による対策、緊急時の対応、監視カメラの設置等数々の方策が講じられている。</p>		

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関との連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
(2) 地域との交流		第三者 評価結果
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	c
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援		第三者 評価結果
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

●社会資源との協働により連携した支援がなされている。県内乳児院：会合および研修、全国の法人内乳児院：相談および情報共有、行政・児童相談所・保健センター：カンファンス等連携した支援、併設の看護学校・病院：防災や講演等々豊富なネットワークを利用した繋がりと絆により子どもたちの福祉に資するよう取り組んでいる。

●地域交流・支援については里親支援・ボランティアの活用・地域行事への参加などできる範囲において活動に努めている。子どもと保護者を守りながら地域支援を展開するという難題についても挑戦の意を表明されており、地域との防災協力など変貌する周辺地域に対して今後何をすべきかを検討していくことが提案されている。

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	a
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

●積極的な外部研修への参加がなされており、職員各人の経験やレベル、過去の参加などを考慮し、シフトの組み方を工夫・相談しながら行われている。参加時の資料や報告は一人ひとりファイリングがなされており、各人にとどめることなく全体に広がるよう共有にも努めている。

●事業所内勉強会は年度で計画されており、定期的に・多岐に渡る項目において研鑽がなされている。また勉強会が始まる際には、和やかな雰囲気となるよう手遊びをしてから行うなど工夫をもって取り組みがなされている。また困難なケースに対しても管理職や心理士によるスーパーバイズがなされる体制が整えられている。

8 施設運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者 評価結果
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④	運営理念や基本方針を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a

(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		第三者 評価結果
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
⑤	事業計画を保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●施設のパンフレットには理念・基本方針・目標・保育の特徴が日課や行事等と一緒に掲載されており、一目で理解しやすい内容となっている。また広報誌を定期で配布しており、保護者や地域の方々にも運営の流れや近況を知ってもらえるよう努めている。</p> <p>●施設独自のホームページが立ち上げられており、施設の明るく温かな雰囲気がよく表現されている。乳児院の説明・施設概要・一日の流れなどが掲載されている。またパンフレットの内容以外にも、院長のブログ・求人情報などが載せられており、施設理解のための新たなツールとなることが期待される。</p>		
(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握		第三者 評価結果
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	a
③	外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●数多くの施設を持つ法人の中で、予算・人事に対して独立した運営が任されている。施設長は、限られた環境の中で人員の確保、経営効率の向上に尽力している。今後は併設の院内においても施設のプレゼンスをあげていくことを目指しており、更なる協調した体制づくりに取り組んでいる。</p> <p>●子どもたちの養育支援について熱意をもった職員が多く、職員たちを正しい方向に導くよう施設長がけん引している。行政や法人内の監査、関係施設からの情報、法令遵守の精神を通して、子ども・職員・施設全体の福祉に資するよう・適切な運営となるよう取り組んでいる。</p>		

(5) 人事管理の体制整備		第三者 評価結果
①	施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
②	客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	b
③	職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a
④	職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ		第三者 評価結果
①	実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●年度初め、中間、期末と年に3回の職員個人面談が開催されている。面談の際は、目標や改善点などが話し合われ業務に活かされるよう取り組んでいる。目標や評価が記載されたシートは本人に返却され、フィードバックがなされている。また時間外労働の削減や有給休暇の取得向上も実践されており、専門的な技量をもったプロ集団の人事管理が適正・順道になされている。</p> <p>●管理職や心理士に対して相談しやすい雰囲気醸成に努めている。担当する子どもたちのこと、プライベートなこと、職場内のことなど多岐に渡り相談に応じている。また納涼会や忘年会などを通してコミュニケーションを図り、職員が働きやすい職場環境の整備に努めている。</p>		
(7) 標準的な実施方法の確立		第三者 評価結果
①	養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
②	標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	a
(8) 評価と改善の取組		第三者 評価結果
①	施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
②	評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>●昨年度、業務マニュアルの大きな見直しが行われており、各業務に対して指針となる内容として改訂されている。担当の係りを中心に分担した改定作業が行われ、留意点と題した注意事項が各項目に記されるなど経験の浅い職員にも注意事項がわかりやすい内容となっている。また大きな見直しのほか、改定事項等は都度加筆修正がなされている。</p> <p>●本評価に伴う自己評価は、タイプ5（職員一人ひとりおよび施設全体版の作成）が選択され実施された。また職員自己評価も評価表タイプAにて実施されたため、職員にも大変な労力をかけておこなわれている。自らに厳しい評価が下されているとともに組織マネジメントに関する項目については、理解を要する点も多く見られ、評価の課題分析とともに周知がなされていくことが期待される。</p>		